



倉敷の風土が醸す、やさしい旨み

十八盛酒造株式会社（倉敷市児島田の口5-6-14）

TEL : 086-477-7125 / URL : <https://juhachi.jp>



経営概要

代表者	8代目 代表取締役/杜氏 石合 敬三（いしあい けいぞう）
創業	創業 天明五年（1785年）
蔵の歴史	倉敷市児島で創業した200年以上の歴史を持つ老舗酒造。創業時の銘柄「三吉（さんきち）」から、5代目当主・多賀治氏が（「娘十八、番茶も出花」という言葉から）「十八盛」と名付ける。現在は、8代目蔵元で杜氏の敬三氏が備中杜氏の伝統を受け継ぎ、新たな挑戦を続けている。
経営努力	◆蔵元である敬三氏が、2012年頃に突然の交代で杜氏となったことが大きな転機。理系（大手電機メーカー）出身で培った経験を生かして酒質改善に取り組み、新ブランド「多賀治」を立ち上げるなど、蔵元杜氏として新たな酒造りを展開。



事業内容

酒造りのこだわり	◆穏やかな香り・米の旨味・キレの良さを重視し、瀬戸内の魚介料理などに合う酒を目指す。 ◆雄町、山田錦、朝日など、すべて岡山県産の米を使用。特に赤磐市赤坂地区の雄町米など、優良産地を厳選。 ◆理系出身の蔵元が麹室の設備を毎年改良し、科学的なアプローチで品質向上を追求。 ◆旨味・酸味・ガス感のバランスを重視し、和洋問わず食事に合う新しい酒質を展開。
主な銘柄	多賀治（たかじ）
日本酒の輸出の状況	◆中国、韓国、台湾、香港、シンガポール、オーストラリア、英国、フランスへ輸出。タイ向けの商談とベトナム向けの試験輸送を進めている。カナダ向けは物流・流通制度上の課題があり検討段階。 ◆酸高めでしっかりした商品は、海外の人の嗜好にマッチ。 ◆フランスで開催された「Kura Master 2026」で「多賀治 純米雄町」が優秀賞及び純米酒部門のプラチナ賞を獲得。



今後の展望

- ◆ひらがな表記の「たかじ」は飲みやすい低アルコール系、漢字表記の「多賀治」は濃醇な味わいを生かした商品として、それぞれの個性を明確にして展開する方針。
- ◆「多賀治」や「Ace Cat」など、個性的な限定酒の開発を通じて、若年層や海外市場へのアプローチも視野に展開予定。

令和8年7月27日現在



お米の種類によって分けられたカラフルな瓶



八代目：石合敬三氏